

ゆづりんだより

2017.05
Vol.25

改正児童福祉法に思うこと

ほだか施設長 梅村 麻美子

昨年、69年振りに、児童福祉法が大幅に改正されました。法の制定時は戦後の混乱期で、町に溢れる戦争孤児への救済対策が目的でしたが、その後の高度経済成長期を経て、日本の社会が大きく変化したにもかかわらず、根本的に見直されることもなく放置されていたものが、昨年度ようやく、大幅に改正が実現したのです。

見直しの最大のポイントは、基本理念の中で、子どもを「権利の主体である」と明確に位置づけたことです。子どもに権利を与えることには、日本の社会では強い抵抗が存在したことも、法改正が遅れた原因の一つであったでしょう。

また、法改正は、里親委託を積極的に進めるとしています。親の面会がなく、家族のイメージを持つことができない子どもが、良い里親にめぐり会い、家庭に迎え入れられることは大変嬉しいことですが、法改正の里親至上主義には、若干の懸念を覚えるところもあります。それは、乳児院に子どもを預けている親の現状や乳児院の役割を、どれほど理解・把握して頂いているのかと思うからです。

昭和50年頃までは、施設への主な入所理由は、親の死亡と失踪でしたが、現在では、こうした理由はほとんど見られず、ほぼ全ての子どもに親がいます。ほだかを昨年度退所した7名の子どもは、全員親元に帰りました。全国平均でも、約半数の措置児が家庭復帰しています。

親御さんとお話すると、多くの方が、ごく普通の方たちです。しかし、経済的な理由や身近に助けられる親族がない問題、メンタルの病気などの問題を抱えており、子どもたちと暮らしたいと願っていても、今は実現することが出来ない状況下にあるのです。

子どもを養育するだけでなく、課題を抱える親もサポートし、家庭復帰が叶うように生活再建のお手伝いをするのも、乳児院の大きな仕事です。ほだかでも、親御さんが、子どもだけではなく、自分も大切にされた実感でき、生きる力が湧くような対応を心がけています。

こうした親の事情や施設の役割も理解し、里親と施設がお互いの利点を生かして、子どもたちの幸せのために協働していけるような制度設計をして頂けたらと願っています。

この春、2人の子が、ゆうりんから巣立って
いきました。
“大きくなったね会”で1人の子が、「直接言
うのは恥ずかしいから、紙に書きました。」と
部屋中に散りばめられた『ありがとう』の小さ
な紙。数え切れない『ありがとう』に、温かい
気持ちになりました。
出会いと別れを経験し、またひとつ大き
くなった春でした。



レゴランドのプレオープンに
招待していただきました。





子どもたちの成長を感じる季節の
それぞれ出来ることが増え、
年長児はすっかりお兄ちゃん、
お姉ちゃんの顔をしています。



ふれあいセンターおおだか
〜ちびっこのつどい〜



プランタのチューリップがきれいに花を咲かせ、利用者の親子さんを迎えてくれています。

3月31日に、4月から幼稚園・保育所に入園する28人のお友だちとお別れ会をしました。そして4月に入って、新しい親子さんが利用して下さるようになり、また、ちびっ子の広場も活気と笑顔が戻ってきました。

私達職員も新たな気持ちで個々の親子にあった支援をしていきたいと

考えています。

お子さんの扱いに困り悩んでいる方も、当センターを頼って利用してくださっています。それに応えるべく私達も子育て中の不安や悩みを、安心して相談できる場であるよう丁寧に接することを心掛けています。

子育て中の親が、子育て仲間と出会い、情報を得たり、自ら発信したりしながらお子さんもお母さんも学び合えるよう応援していきます。

自立援助ホーム

きょうわ

〇 出会いと別れの中に

〇 たえを探して

この春、きょうわには出会いと別れがありました。

一番長かった職員との別れ、新しい職員との出会い。そして、退所して行った子ども達。きょうわで暮らす子ども達は、そんな人の出会い、別れを目にしながら、何を思うのでしょうか？

きょうわの職員の仕事は、子ども達の自立を支援することです。

入所してくる子どもは、主に十代なので、自立まで果てしなく長い道のりの子どもいれば、思春期の真っ只中で、職員の話聞けない子どもいたりします。

生活のリズムを身につけるところから、就労につなげるまで、本人も職員もたくさん壁にぶつかりながら、答えを探し、毎日を乗り越えていきます。そんな中でも、円満退所できる子どもいれば、人間関係につまずき、せつかく決まった職場をやめてしまう子どもいる。職員の仕事とは何かをつくづく考えさせられます。

本人の為だと思って一生懸命動

いていたことが、伝わらなかったり、何度も約束を破られたり、平気で嘘をつかれたり、やりがいというものが、手にとって感じられないことの方が、少ないかもしれない。それでもどこかで、「今大学へ行つてがんばっているよ」とか「将来、職員さんのようになりたい」とそんな話を耳にしたとき、やっぱりこの仕事は辞められないなと思います。それは、この仕事には答えがないからなのかも知れません。

今日もきょうわでは、子ども達と共に、答えを探して歩み続ける職員の姿があります。

子ども達にとつては、これから先の長い人生の中で、短すぎるひと時かもしれないけれど、寄り添い歩いてくれた人として、心に残せたならと感じ、歩み続けています。



絵本から学ぶ「性」と「生」

ゆうりんケアワーカー 矢掛 詩織

この2年間、幼稚園児を対象とした性教育絵本の読み聞かせを担当してきました。自分の身体を守る術を知らない子どもたちに、自分の心と身体は守られるべき大切な存在なんだと伝えるにはどうしたらいいのか……。たくさんの絵本の中から、子どもたちの年齢やテーマに合わせた1冊を選び、試行錯誤を繰り返しながら読み聞かせを行ってきました。



まず、初めて読み聞かせを受ける子どもたちには性教育の基礎である“プライベートパーツ”を伝えるための本を読むことで、「水着で隠れる部分は人に触らせてはいけない大切な場所。そして、嫌だなって感じるタッチには嫌だと言っていいんだよ。」と伝えます。「心と身体のお勉強をするよ。」と言われると、遊び半分でお尻を出したいお年頃の子どもたちは「え？お尻の勉強？」とふざける子もいます。しかし、読み聞かせが始まるとじっと見入り、終わって部屋に戻ると「水着で隠れるところは触らせちゃいけないんだよ。」と他児に注意するような姿もあり、自分たちの想いがしっかりと子どもたちに伝わっていると嬉しくなりました。

識である「生教育」を伝えるのも大人の大切な仕事だと感じています。一人でなんでもやりたい時期の子どもたちには『じぶんでおしりふけるかな』を読み、一緒にお尻の拭き方を練習しました。読み聞かせを聞いたすぐ後は「自分でお尻拭けるよ！」「大人はやらなくて大丈夫！」と自信満々だった子どもたちですが、時々赤ちゃんと戻ってしまうようで「やってー」と甘えてくることもありました。

進級する子どもたちには、まだまだちびちゃんだけどほんの少しだけお兄ちゃんお姉ちゃんになった自分の成長を、大人と一緒に喜べるように『おおきくなるっていいこと』を選びました。「おおきくなるっていいことは……？」と聞かれても、自分で自分の成長なんてピンと来ない子どもたちですが、小さい子に優しく声を

かける姿を見ると、確かに成長していることが分かります。

春から小学生になる子どもたちには『学校だっどきどきしてる』を読んで「学校ってどんなところかな？楽しいのかな？先生って怖いかな？ってドキドキするのはみんな同じなんだね。大人はいつでも見守っているから大丈夫だよ。」と伝えました。

ゆうりんで生活する子どもたちがどんな小学生になっってほしいか、どんな大人になっってほしいか、未来の子どもたちを思い描きながら職員は子どもたちと一緒にゆうりんでの日々を過ごしています。これからも子どもたちと素敵な絵本の世界を楽しみながら、わたし自身も一緒に成長していきたいと思っています。



職員紹介

ゆりりんケアワーカー

林 直正

・この仕事をしていて良かったと思う瞬間は？

子どもたちと日々関わっていく中で、子どもたちと一緒に遊んで本気で遊びを楽しんだりする瞬間、また、時には叱ったりすることもありますが、最後には職員に「笑顔」で甘えたり、話してくれたりしてくれる瞬間に、子どもたちから逆に元気をもらいます。子どもたちから、元気をもらうだけでなく、お互いに元気を分け合うことができるように、今後も仕事を続けていきたいなと思っています。

・休みの日は何をしていますか

私自身、車が大好きで、暇さえあれば車を改造したりしています。あとは、前職は一人暮らしの生活が良かったため、その時に趣味になっていたカフェ巡りをしています。そこで読書を長時間していることが最近多いですね。他にも多趣味なので、子どもたちとも趣味を一緒に楽しんでいきたいなと思います。

・ストレス発散方法を教えてください

仕事終わりに事務所でハーブティーを飲んでいます。ラベンダーが落ち着く効果があるとのことだったので、お茶屋さんで買ってきては、飲み漁っていますね(笑)あとは、家に電子ドラ



ムがあるので、ヘッドフォンで音楽を聴きながらドラムをたたいて発散しています。あとはやっぱりドライブです！

・最後に一言どうぞ

私は昨年7月から入職し、まだまだ子どもたちとの関わり方も模索している段階なので、もっと経験を積んでいきたいということ強く感じています。何事にも恐れず、チャレンジしていけるように今後も一生懸命子どもたちと関わっていききたいです。

また新しく入職した職員さんにも、入職当時のフレッシュな気持ち思い返し、不安な気持ち等を汲み取りつつも、学んだことを伝え、アドバイスしていけたらなと思っています。



ほだか保育士

天野 恵理子

・趣味を教えてください。

趣味は物づくりで、特に洋裁が好きです。初めてのボータススをミシンに費やしたほど裁縫が好きで、ハロウィンやクリスマスといったイベントでは、子どもの衣装係を担当しています。月齢に合った着やすい服をモットーにデザインから考える衣装作りは、私の息抜きになっています。

・ほだかで働いていて良かったと思うことは何ですか？

児童養護施設と併設しているため、ほだかで見ていた子ども達の成長を日々感じる事が出来る事です。ミルクを飲み、歩くことも出来なかった子ども達が、ランドセルを背負い一丁前な言葉を使っている姿を見ると、あの時はこうだったのになと懐かしく思うのと同時に、頑張ってきて良かったなと活力が貰えます。

あとはご飯が美味しいことです！毎日出勤してすぐにメニューの確認をして、子ども達以上にご飯の時間を楽しんでいます。(笑)

・子どもとの関わりでクッスとしたエピソードを教えてください。

私の愛称は「あまちゃん」と比較的言いやすいので、「あ」と「ま」がつく「アンパンマン」が言える子ども達

には上手に呼んで貰えるのですが、アンパンマンと混ざってしまうのか「あまちゃん」と呼ばれたり、「ままちゃん」「あまかん」「あーちゃん」と、違った名前と呼ばれたりすることです。(笑)

違う名前と呼ばれた時は、「なんか違うよな」と思いつつ、とてもほっこりします。

・最後に一言どうぞ

最年少で入職してから早6年！気付けば中堅職員になった今、新人教育や後輩のフォローを通して初心を振り返るとともに、自身の役割を全う出来るよう頑張りたいと思います。

7年目の今年は「生き生き」を目標に、楽しく働くことが出来たらいいなと思います。



平成29年度 事業計画より

社会福祉法人中央有鄰学院 法人本部 平成29年度 重点課題

1、法人理念の周知徹底

中央有鄰学院の社会的存在価値、使命及び信条を明確にすると共に職員の行動規範になっています。職員に周知徹底するとともに、利用者（子ども、家族）や地域、関係者への理解を求める活動も必要になります。

2、社会福祉法人制度の改革

（1）評議員会の設置

中央有鄰学院では、これまで評議員会は設置されていませんでしたが、制度改革を受け、今年度より評議員会を設置し、より一層の健全な法人運営に取り組みます。

（2）社会福祉充実残額にかかる社会貢献活動の取り組み

法人の有する「社会福祉充実残額（再投下財産額）」を地域社会貢献活動に活かす取り組みを中期計画に取り入れ、実践につなげます。

（3）理事会の定期開催

28年度に引き続き、奇数月に定期開催を予定。予算・事業計画、決算・事業報告のほか、定期的に進捗状況をお知らせ、共有し、民主的な法人運営に取り組みます。

3、中長期計画の策定と職員への周知

大高赤塚土地区画整理組合の造成工事が終了し、中央有鄰学院の北側に約500㎡の更地を取得しました。住所が変更確定される平成29年度以降、建ぺい率が増えることを踏まえ、中期計画、長期計画を策定し、事業運営方針を明確にします。

4、経営情報の公開

平成26年4月から社会福祉法人の経営情報を公表することが義務付けされることになりました。当法人ではすでに広報及びホームページで貸借対照表、収支計算書は公表しています。が、29年度は、全国経営者協議会の「会員法人情報公開ページ」に登録、情報公開を予定しています。

5、生活資金給付援助活動の実施

平成28年度より実施している「生活資金給付援助活動」。中央有鄰学院が運営する児童養護施設、自立援助ホーム等を退所後、大学等へ進学した児童に対し、生活資金給付の援助を行う活動です。

今年度も引き続き実施の予定ですが、限られた財源での活動であるため、事業による財源確保の他、多くの方々に賛同、ご協力を得ることができるよう、様々な機会を通して広報していきます。

お知らせ



自立援助ホーム『きょうわ』が
名古屋市内に移転します

この度きょうわは、新しく生まれ変わることになりました！

これまで6名の定員でしたが、11名の規模ホームへと成長。建物は、小民家を改装し、母屋と離れの二棟にて始動します。

現在の場所からお別れするのは、寂しい気がしますが、きょうわから巣立って行った子ども達との思い出を胸に、新たな歴史を刻んでいけたらと思っています。

今後もし新しいきょうわを温かく見守って頂きますようお願いいたします。

地域小規模児童養護施設

『かえで』を開所しました

“かえで”の名前の由来は、中央有鄰学院がある名古屋市緑区の木であること、また“かえで”の花言葉に「大切な思い出」という意味があり、『かえで』で生活する子どもたちが一日一日を大切に、成長して振り返った時に大切な思い出として心に残るようなものになってもらえたらという思いが込められています。

子どもたちにとって居心地の良い、安心して生活できる家。そして、職員にとっても長く仕事を続けられるような家作りを目指していきたいと思っています。

平成28年9月1日から平成29年3月31日までに、寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。(順不同・敬称略)記載されていない方がございましたらお許しください。

【個人】

石井祐治 後藤順生 後藤節子
後藤雪江 紙屋祝子 山口保
野津信子 庄田基 佐々木やえ
成瀬敦子 一杉治矢 中井幸恵
真木芳子 飯田延孝 門川ひとみ
大原誠章 山口実 田中光代
長江謙二 長江真克 長江和子
多賀令子 柴橋佳幸 河西ヒロ子
川澄アキエ 宮地クメ子 鬼頭武久
福岡俊郎 矢守信昭 児玉京子
ジュームス・ヘイブン 福井克義
後藤カズエ 松山信 柳瀬哲夫
山口晃司 飯島将司 山口和子
牧野直弘 山口昌弘 塚本潤
加藤治保 中嶋洋 川瀬喜世美
林正彦 児玉克己 植田望
大瀬良美沙紀 北尾実 中山芳恵
吉長敦子 金田和久 服部みどり
井上京子 門司一徹 持橋いくよ
木村実希 稲垣孝子 西川慶子
竹中俊昌 佐藤友行 森本利根
山口ミツノ 浜島四郎 鶴見利雄
久野すみこ 小椋寿男 西川紀子
峰野充子 泉里紗 畔柳まどか
永谷康信 谷藤沙希 星野美弥子
星野雄大 種洋史 針山信康
丸山圭子 谷本美枝子 富田咲良
寺尾法子 上野美紗 山本遥香

ギヤップジャパン(株) 東洋出版(株)
ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)
㈱オータ グランドオータ888 鳴海

観音寺 (株)チュチュアンナ
(株)遊都レインボー港店 (株)名古屋食糧
平成観光KEIN大高店 中部善意銀行
フィリップモリスジャパン(株)
愛知県信用農業協同組合 (JA愛知信連)
全国シヤンメリー協同組合
(株)さんわコーポレーション
(株)ブライド・トゥー・ビー
(株)アパマンショップネットワーク
ライフサポート仁科
セブンイレブン大高店 日本鏡餅組合
日本ベビーフード協議会
(株)日本ゼネラルフード
一步の会 名古屋商工会議所
(株)大野加工流通 愛知県共同募金会
ピアガーデンマイアミ
(株)ゆうちよ銀行広報部
(株)地域計画建築研究所
緑鯉城会 (株)ベルシャボ
(株)フジトランスコ・ポレーション
(有)沖玉エンジニアリング
アサヒビール(株) 東昌寺
オサムファーム 名東ロータリー
(株)安納スウィーツファーム
朝日新聞神の倉・平針
日本缶詰瓶詰レトルト食品協会
(株)イーぼる りんの会
キリングループロジスティックス(株)
日本公衆電話会東海統括支部
(株)シュリンプ (有)尾州商会
スズケングループ労働組合連合会
三国電気通信サービス(株)
(有)ダスカジャパンクアウテモック
「100人の聖書基金」運営事務局
木村スポーツ 中部楽器技術専門学校
楽天サンタプロジェクト
サンシャインクラブ 日本特殊陶業(株)
中日本興行(株) タキヒョー(株)
(株)ジェイホールディングス
名古屋子ども福祉課 日本福祉大学
名古屋東山ロータリークラブ

名古屋名南ロータリークラブ
名古屋観光ホテル
トヨタ部品愛知共販労働組合
特定非営利活動法人夢シート
LEGOLAND Japan
連合愛知 カープス大府勤文前
名古屋食肉三水会協同組合
ホテル メルパルクNAGOYA
熱田ロータリーアクト 霊友会
中京大遊びグループ おやじの会
華調風月 山口晃司三弦会
大高学区スポーツ推進委員
里親ボランティア ちびっこの集い
中部アニマルセラピー アオキ工業
NHK名古屋放送局 中部日本放送(株)
東海テレビ福祉文化事業団
名古屋テレビ放送(株)
中京テレビ放送(株) テレビ愛知(株)
中日新聞社会事業団 勝鬨寺
カトリック聖マリア在俗会 圓道寺
Grace Truth Church
富士ダイス(株) 緑区更正保護女性会
大高学区民生・児童委員協議会
(株)結 霊友会ありがとうこだま基金
ゴルフバートナー 名古屋女子大学
大高北学区民生委員協議会
大高南学区民生委員協議会
大高南学区連絡協議会 (株)ひしわ
安城文化服飾専門学校 ゼンユー
ITO (株)東芝 (有)ジャステイス
みどり女性会・緑区地域女性団体連絡協議会・太子学区女性会
国際ロータリー第2760地区名古屋
市内25RC社会奉仕委員会
名古屋商工会議所 守山商工会
鳴海商工会 有松商工会
共同募金義援金「幼い子どものゆたかな育ち応援助成」「ははの箱」
ヒルズウォーク徳重ガーデンズ

COLUMN

想像力と創造力

子どもたちの生い立ちや背景を知るたびに
その時々の子どもの目線になって
思いを馳せる

どんな思いで、母親の言葉を聞き
父親の背中を見ていたのだろう
どんな思いで、施設の門をくぐったのだろう

君の目に、職員は
どんな風に映っているの？
君の目に、児童相談所の人たちは
どんな風に映っているの？
君の目に、社会は、施設は
どんな風に映っているの？

目線を合わせる
その子どもの身になって思いを馳せる…
この「想像力」は、とても大事

その思いにできるだけ寄り添い
そして、支援を作り出していく
ここで、「創造力」

この仕事は、「想像力」と「創造力」が
求められるのだ